



コントラクト範囲の例

この章は、次の内容で構成されています。

- [コントラクト範囲の例 \(1 ページ\)](#)

コントラクト範囲の例

VRF1 に EPG1 と EPG2 があり、VRF2 に EPG3 と EPG4 があるとして、C1 と呼ばれるコントラクトおよび `scope = context` を使用します。

- EPG1 はコントラクト C1 を提供し、EPG2 はコントラクト C1 を消費します。
- EPG3 はコントラクト C1 を提供し、EPG4 はコントラクト C1 を消費します。

この例では、4 つすべての EPG が同じコントラクトを共有していますが、そのうちの 2 つが 1 つの仮想ルート転送 (VRF) インスタンス (コンテキストまたはプライベートネットワークとも呼ばれる) にあり、そのうちの 2 つが他の VRF にあります。コントラクトは EPG1 と EPG2 の間でのみ適用され、EPG3 と EPG4 の間で個別に適用されます。コントラクトは、範囲が何であれ、この場合は VRF に限定されます。

`scope = application profile` の場合も同じです。2 つのアプリケーションプロファイルに EPG があり、`scope = application profile` である場合、コントラクトはアプリケーションプロファイルの EPG に適用されます。

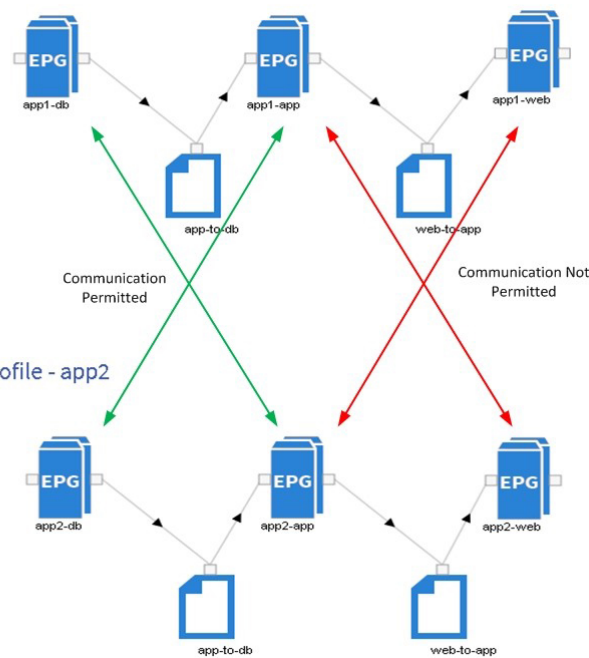
以下に、2 つのコントラクトの APIC GUI スクリーンショットを示します。

図 1: セキュリティポリシーのコントラクトの例

Security Policies - Contracts

NAME	SCOPE	QOS CLASS	SUBJECTS
app-to-db	context	Unspecified	app-to-db
web-to-app	application-profile	Unspecified	web-to-app

Application Profile - app1



1つのコントラクトは、アプリケーションプロファイルの範囲を持つWebからアプリへの通信用です。app-to-db コントラクトには、VRF の範囲があります。app1 および app2 アプリケーションプロファイルは、同じ VRF にあります。各アプリケーションプロファイルには EPG が含まれています。

app-to-db コントラクトの範囲は VRF レベルで適用され、両方のアプリケーションプロファイルが同じ VRF に属しているため、app-to-db コントラクトのすべてのコンシューマーはプロバイダー EPG と通信できます。

- EPG-app1-db は EPG-app1-app と双方向に通信できます
- EPG-app2-db は EPG-app2-app と双方向に通信できます
- EPG-app1-db は EPG-app2-app と双方向に通信できます
- EPG-app2-db は EPG-app1-app と双方向に通信できます

アプリケーションプロファイルの範囲を持つ Web からアプリへのコントラクトを使用するエンドポイントの次のペアは、コントラクトのプロバイダーとコンシューマーのみがそのアプリケーションプロファイル内で通信できるようにします。

- EPG-app1-app は EPG-app1-web と通信できます
- EPG-app2-app は EPG-app2-web と通信できます

上記とは異なり、アプリおよびデータベースの EPG は、アプリケーションプロファイルの外部で通信できません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。